

2025年



生物調査ニュースレター

6月～10月、公園に生育・生息している生きものを調べました。

水生植物

水中や水辺に生育する植物

希少なマツモや、外来種のオオカナダモなどが確認されました。これらは人によって持ち込まれたと考えられます。

ほかにも、ノカンゾウなどの水辺の植物が確認されました。



マツモ



ノカンゾウ

魚類

主に網を使って捕獲しました。

昨年よりも在来種のモツゴやクロダハゼの数が多く確認されました。

種数で見ると外来種の方が多く、特定外来生物のブルーギルなどが捕獲されました。



クロダハゼ



memo

外来種:人間によって他の地域から持ち込まれた生きもののこと

両生類・爬虫類

両生類:カエル

爬虫類:ヘビ・トカゲ・カメなど

両生類は特定外来生物のウシガエルや希少なアズマヒキガエルの幼生が、

爬虫類はスッポンの稚ガメなどが確認されました。



アズマヒキガエル



スッポン

大型底生動物

貝・エビ・カニ・ヤゴなど

上流部では昨年に引き続きサワガニの生息が確認されました。

ヤゴ(トンボの幼虫)も、コシアキトンボやシオカラトンボなどの種類が見つかっています。



サワガニ

生物調査 with ボランティア

2025年9月13日に生物調査イベントを実施し、ボランティアと生徒さん総勢23名が参加してくださいました！



捕獲された生きもの

	種名	個体数
在来種	モツゴ	66
	クロダハゼ	29
	スジエビ	33
	テナガエビ	4
外来種	アメリカザリガニ	7
	ウシガエル	19
	クサガメ	1
	カネヒラ	1
	タイリクバラタナゴ	1
	ブルーギル	110
	キンギョ	1
	ウシガエルの幼生	

クチボソとも呼ばれるよ

手が長いよ！

とても大きくなっちゃ沢山食べるよ！

成長！

口に入るものは何でも食べるよ！



モツゴ



テナガエビ



特定外来



ウシガエル

特定外来



調査の結果からわかったこと

主要な魚3種の捕獲数の変化

～2022年～2025年に実施した9月調査の捕獲数を比較しました～



- ブルーギルは魚卵や魚を好んで捕食します。在来種への影響が大きいため、**特定外来生物に指定**されています。
- 2023年2月に外来種を駆除した後、一時**ブルーギル捕獲数がゼロ**になりました。在来種が多く確認されました。
- 2024年からはブルーギルが復活。モツゴの数が激減しました。ブルーギルによる捕食の影響が考えられます。
- 2025年もブルーギルは増えています。在来種の捕獲数も増えていますが、今後の変化には注意が必要です。

特定外来生物ってなに？

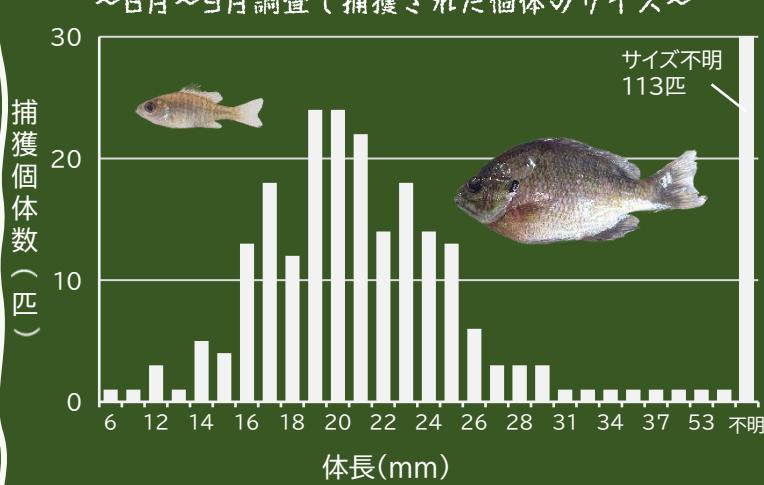
外来種の中でも人や生態系への影響が大きい種は「**特定外来生物**」に指定され、**運ぶこと、放すこと、飼うこと**などが法律で厳しく禁止されています。

実は！ アメリカザリガニも**特定外来生物**！

アメリカザリガニは身近な存在ですが、池の生態系のバランスを壊し、深刻な影響を与えます。飼育している生きものは責任をもって最後まで飼ってね！

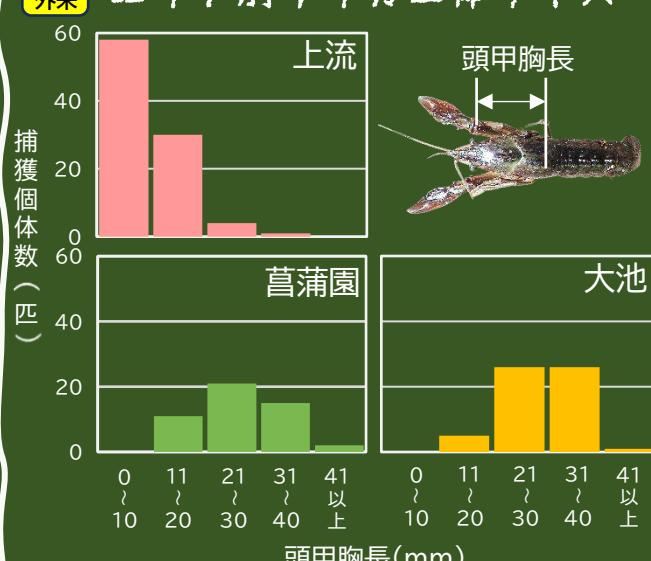
ブルーギル体サイズ分布

～6月～9月調査で捕獲された個体のサイズ～



- 2025年はブルーギルの稚魚が多く確認され、池内で繁殖していることが示されました。
- ブルーギルは体長が100mmになると繁殖できるようになり、一度に数万個の卵を産みます。

エリア別ザリガニ体サイズ



- 上流は小型、菖蒲園や大池は大型の個体が多く見られました。

港区ホームページ「有栖川宮記念公園池の生物調査」

今までの調査結果やお知らせを随時更新中！ぜひご覧ください。

トップページ>環境・まちづくり>環境>都市緑化・自然環境>生物多様性>有栖川宮記念公園池の生物調査

